

令和元年度第1回豊中市食育推進協議会 議事録

1. 日時 令和元年(2019年)8月26日(月)14:00～16:00
2. 場所 豊中市保健所 2階 講堂
3. 案件 (1) 第3期豊中市食育推進計画について
(2) 平成30年度豊中市食育推進計画年次報告書について
(3) 食育推進計画の推進に向けた今後の方向性について
(4) 血管プロジェクト「減塩協力店の募集」について
(5) その他

4. 出席者

(1)委員(順不同、敬称略)

会長 林 宏一(武庫川女子大学)
副会長 地 寄 剛史((一社)豊中市医師会)
委員 西村 節子(関西福祉科学大学)
〃 星名 拓治((一社)豊中市歯科医師会)
〃 森川 幸次((一社)豊中市薬剤師会)
〃 田中 隆介(豊中市私立幼稚園連合会)
〃 得 喜成(豊中市民間保育園連合会)
〃 矢野 安啓(豊中市立小学校長会)
〃 前田 雄治(豊中市老人クラブ連合会)
〃 山田 徹(豊中市農業経営者協議会)
〃 吉村 直樹(豊中商工会議所)
〃 西田 亜希子(豊中市PTA連合協議会)
〃 櫻井 徳子(とよなか消費者協会)
〃 永井 敏輝(豊中市健康づくり推進員会)
〃 岸田 興次(とよなか市民環境会議アジェンダ21)
〃 木村 美保子(豊中地域活動栄養士会トゥデイ)
〃 建石 摩耶(市民公募)

(2)傍聴者 0人

議事概要

■ 開会あいさつ

事務局 ただいまから令和元年度第1回豊中市食育推進協議会を開催させていただきます。皆様には大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

まず初めに、今年度4月に機構改革がございまして、昨年度までは健康福祉部保健医療課が事務局でございましたが、新しく健康医療部をつくり、その中の健康政策課が今回から事務局をさせていただいております。健康福祉部は福祉関係・健康関係、国民健康保険関係の大きな部でございましたが、それを福祉部と健康医療部の2部に分けております。

この協議会は公開となっておりますが、本日は傍聴者の方はいらっしゃいませんので、ご報告させていただきます。

また、委員の方に一部異動がございましたので、今回から新たにご参画いただきます委員の方をご紹介します。

- ・ 関西福祉科学大学健康福祉学部福祉栄養学科准教授西村節子委員
- ・ 豊中市立小学校長会豊中市立庄内西小学校校長矢野安啓委員
- ・ 豊中市PTA連合協議会広報副委員長西田亜希子委員
- ・ 豊中地域活動栄養士会トゥディ会長木村美保子委員

また、豊中市老人クラブ連合会前田委員が役職が変更になり、会長になられたということでご訂正よろしくお願いいたします。

なお、本日の出席状況ですが、齊藤委員と栗林委員がご欠席、得委員が遅れて来られると聞いております。

それでは議事進行につきまして、林会長よろしくお願いいたします。

会長 皆さん、改めまして、会長を仰せつかっております林でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、令和になって初めての協議会ということで、またメンバーも新しい方々、4名の方にご参画をいただきまして、大変期待しておりますのでございます。何でも言いやすいような会にしたいと思っておりますので、遠慮なくご発言いただけたらと思っております。

会議に先立ちまして資料の確認を事務局からお願いいたします。

事務局 〈資料確認〉

会長 それでは議事を進めて参ります。案件1、案件2について事務局よりお願いいたします。

■ 案件1. 第3期豊中市食育推進計画について

■ 案件2. 平成30年度豊中市食育推進計画年次報告書について

事務局 案件1につきまして、食育推進計画の概要版、資料2を用いまして、本市第3期食育推進計画の概要を説明させていただきます。

- ・ 第3期豊中市食育推進計画概要版
- ・ 【資料2】 第3期豊中市食育推進計画 目標項目と目標値

次に案件2につきまして、資料1を用いまして昨年度市内で行われた食

育関連の事業報告をさせていただきます。

・【資料1】平成30年度豊中市食育推進計画年次報告書

会長
委員

ご意見ご質問がありましたらお願いします。

豊中市の委員をさせていただくということで、計画や報告書、会議録を読ませていただきまして、いろんな機関が連携しながら素晴らしいことをたくさんされているなと思ったところでございます。

年次報告書の6ページの「プラスワンシート」ですが、フレイルや高齢者の低栄養についてのプラスワンシートはあるのでしょうか。もし可能でしたら、ネット上でも取り出せる形になるといいかなと思います。

もう一点、若い世代からデンタルフロスを使用しましょうと書かれていますが、どういったところでどんな教育がなされているのでしょうか。自分のところの大学生に、デンタルフロスとか使っているかと聞いたら、使っている子もぱらぱらおまして、どこかで教育を受けたか聞くと、「親から言われた」、「ネットで見たから」等で、保健所や保健センターでどういう教育をされているのか現状を教えてくださいなと思います。

事務局

プラスワンシートですが、高齢者版のプラスワンシートも作成しております。ホームページに掲載できていないと思われますので、確認しまして、ホームページにアップしたいと思います。

それから歯科につきましては、どんなところでどのようにお伝えができているか、私も把握しきれておりません。

食育における歯科分野の取り組みといたしまして、もともとは定期的な歯科検診を受けている人の増加というところを目標に掲げておりましたが、歯科疾患の予防に加えて、食を支える口腔機能の育ちのところですか、維持・向上の支援が重要と歯科分野の担当からは聞いております。

事務局

歯科医師会では、各小学校で、年度ごとに「よい歯のつどい」ということで、指導等されておられます。もし詳しいことがお伝えいただければ、ありがたいと思います。

委員

まずこのデンタルフロスあるいは歯間ブラシ、これは指導を受けないといけないことでありまして、特に歯間ブラシはサイズがございますから、適正なサイズを、個々の方が選ぶのは非常に難しいです。それと習慣づけるというのは、はっきり申し上げまして、年代を経るとできないものです。一番いいのは、子どものときに、特に乳歯、それから生え変わりの時期はもう既にその時期から補助のものが要るわけです。必ず保護者の方が自分で実践して、それで子どもにしてあげると非常によく受け入れる。ですから私たちは乳幼児健診に来られたときに、補助のものも必要な人はその場で「お母さん一緒にやってください」と説明して、そういうふうに小さいうちに取り組むのが非常に重要なことだと思います。

事務局

豊中市の場合は、1歳半と3歳半健診のときに、歯科健診を実施し、かなり受診率も高い状況です。歯科医師会から歯科の先生に来ていただいているのと、歯科衛生士も母子保健の部門におりますので、常時相談も受けな

がら、かかりつけの先生を持っていただくということをお勧めしています。日ごろも多くの電話相談が入っていますので、健診をきっかけに、しっかり説明し、すくすくよい歯の教室や歯科健診時の保健指導で、小さい時期からの指導をさせていただいています。

委員 幼稚園も保育園も認定こども園も、歯科医師会の先生方にご協力いただいて、歯科健診に来ていただいています。基本うがいから歯ブラシの習慣づけの歯のケアは、園内でやっているとところがすごく多いように思います。

ただ、おうちに帰ってから同じようにできるかということ、そこがちょっと難しいところで、そういう意味では乳児期からお母さんのケアをしていただけると、園に入ってからでも例えば歯科健診で虫歯がわかったときに、すぐお医者さん行かなと思ってくださるか、生え変わるからええやろとなるか、随分大きな影響が出てくると思いますので、引き続きお母さんのサポートをよろしくお願いします。

委員 民生委員をやっております、高齢者でひとり暮らしの方のところをよく回りますが、なかなか栄養が思うようにとれない方もいらっしゃいます。自分から外へ出られない方も多くいらっしゃいますが、例えば包括支援センターや社協でされているような、ミニ体操教室等の催しには出られてる方も多いので、そういうところに先ほどの高齢者向けのプラスワンシートを配布していただけると、目に触れやすいのかなと思います。

会長 続きまして、案件3について事務局から説明をお願いします。

■案件3. 食育推進計画の推進に向けた今後の方向性について

事務局 計画の目標達成に向けて、こんなことに力を入れていくべきではないか、ここを解決できたらもっと食育が身近なものになるのではないかと、実際に取り組まれていること等、広くご意見をいただきたいと考えております。

・【資料2】 第3期豊中市食育推進計画 目標項目と目標値

会長 ご意見をお願いします。

委員 私は妻が6年前に難病にかかりまして、食事も自分で作るようになりました。バランスも考えながら自分でつくってみると、自然と台所に立つのが楽しいと思うようになってきました。

今、家でゴーヤをつくっていて、初めて塩昆布とゴーヤの和え物をつくって地域の方におすそ分けしたら、これが何ともおいしいというふうなことを言っていただきまして、非常に嬉しかったです。

やはり高齢者は、自分で考えて、何か1つでも作っていけば、楽しく食事ができると思います。ただ食事だけではなく、食事の上に語り合うという、このセットができていければ、健康寿命とまた食事も楽しく食べていけるのではないかなと自分自身の体験の中で思いました。食育を通して、周りとの触れ合いをどう考えていくかということにちょっと力を入れていけば、なおかつ食事がおいしく食べられていけるのではないかと考えております。

委員 食育に関心を持っている人の増加というのは、どういう質問をされている

のでしょうか。

事務局 質問自体は、食育に関心がありますかと聞いておりますが、「食育とは」の補足説明をつけて、それらについて、関心がありますかと聞いています。

委員 メニューについて検討していますかとか、工夫されていますかとか、食事をつくるときに何か考えられていますかとか、そういう質問だともう少し割合が増えたかもしれません。食育に関心がありますかと聞かれると、ちょっと難しいと思います。その辺りの質問の仕方によって、かなり数字が変わってくると思います。

それと、一番すばらしいと思うのは、おいしく楽しく食事をしようというのがこの中で一番数字が高いということです。割とそういう方々は自然と食事に関心を持たれているのではないかと思います。

委員 食育に関心を持っている人の増加というところで、特に16歳～19歳が非常に%が低くなっています。少年期の6歳～15歳は、保護者の80.6%の数値が出ていますが、本人の%の表示が出ていない。しかし16～19歳が46.8%ならば、6歳～15歳も推測としてやっぱり相当低いのではないかと考えられます。

私は学校で1学期と3学期に子どもたちに、農業を好きになろう、農作物に興味を持とうということを中心にお話をさせていただいています。そういうことも含めまして、一步一步の前進が、この%を押し上げる力になるかと思っています。

1つお聞きしたいのですが、令和4年度の数値目標が、例えば16～19歳で95%という数字設定をされておられますが、現状からは50%アップの目標で、何のデータに基づいて95%の数値目標を出されたのか、ちょっと疑問があります。いかがでしょうか。

事務局 1期計画を策定する際に、国の目標値に合わせて90%といたしました。次の2期計画策定の際にとったアンケート調査で幼年期の保護者が90%の目標を達成しておりましたので、そのときに5%引き上げまして、95%としております。

また3期計画の策定に当たりまして、食育への関心を持とうというところは全年代共通で、全体的に働きかけていけないところでありましたので、各年代でそれぞれ設定するのではなく、全体的に95%をめざしましょうと設定いたしました。

会長 目標値につきましては、現状の調査結果から、具体的な手が届きそうな数値を挙げるというやり方も1つですし、例えばこのように、理想値が決まっていて、理想値に近づけるという考え方もあるのかなと思っています。

委員 桜井谷小学校でPTA会長をしておりますが、うちの学校でも食育に関しては、地域の方に畑をお借りしたり、学校内の田んぼでお米づくりをして、食育に関しては、本当に十分やっているなと思っています。

保護者の方のお話など聞いていて、最近すごく感じることは、共働きがとも増えていて毎日が忙しいという家庭がとて多いということです。土

曜日であってもカレーは作るんじゃないくて、レトルトカレーを食べるという話も多く聞いています。

お母さんお父さんが忙しいので、歯のフロスも言えなかったり、ご飯も少し手抜きになったり、好き嫌い、食べ残しも気にはなるけどそこまで時間をかけられない。主食・主菜・副菜がそろった食事の割合が高くないのはそういったところもあるのかなと思います。

小さい頃からバランスよくとることが大事だよということを学校なり家庭なりで言い続けていかないと、やはり16歳～19歳あたりは、好きなようにしてしまうという傾向もあるのではないかなと思います。

委員 高校生までの間は、朝ご飯や野菜の分量もある程度親の庇護のもと、親が忙しいと言いつつも、用意され食べられています、大学生になると、一人暮らしの子も増え、親も大学生になったからと世話をあまりしなくなり、野菜をとる量が減ります。朝ご飯を食べない子も3割4割となってきます。資料からも、朝ご飯を食べる頻度が一番低いのが少年期6歳～15歳、この部分と、16歳～19歳ですね。20代でぐんと増えますが、やはり調理経験が関係してくるのかなと。これから一人暮らしをするという段階で、もう一回今までの家庭科のおさらいのような、こういう調理ができたらいよいよというような教育が、高校とタイアップしてできたらいいのかなというふう思います。

ただ、高校生は、他の市町村からも来ていますし、豊中管内の高校をターゲットにできるのかどうかわかりませんが、そういったこともやっていかないと、なかなか自主的につくれる子は少ないのかなと思います。

委員 やはり共働きということで、食育という気持ちよりも、つくる暇がないんだということをよく言われます。子ども食堂をやっておりますが、お母さんが忙しいから朝食がないとか、もう今日はすし屋へ行こうとか、ファミリーレストランで間に合わせようとか。ただし、食育を考えていないとは言えないと思うんです。やはり子どもたちと一緒に食べるということは、それも食育になりますし、栄養についても考えておられるように思います。

それから、地域の方と一緒に調理をして食事をして、ということを考えてもできる場所がない。なので、保健所で料理教室をやっていくとか、そういう場所を作っていくといけないと思います。

調理経験が難しいということであれば、栄養等教育を主にやっていくほうがいいんじゃないかと思います。小学校ほど、給食、これほど料理というものに対する関心を持つ時期はないですので、先生から食育を教えてくださいただけたらと思います。

今コンビニエンスストアで、ラーメンとおにぎり一個と買っている人、非常に多くなっています。そこら中にコンビニがありますから、簡単に買って食べることができます。朝食にごはんとみそ汁とか、そういう定番な日本の食事が、薄まれてきたような気がします。食育について、市民に対しての広報をもう一度考え直さないといけないというふうに思います。

それから、地域の今の生活の中で、お年寄りには本当に食事をしないです。1日に1回か2回食べたら邪魔くさくなってくると。今買い物難民ということで、結局買いに行こうと思っても、近くにスーパーがない。そうすると適当に買ってきて食べるというのが現実になっています。

委員 2点ありまして、1つは、プラスワンという出し方は効果があるだろうなということと、朝食食べて来られない子に対して、例えば子ども食堂の朝バージョンがあったらいいなということです。

学校で、歯の指導をするということに来てくださっている歯医者さんがあまりのひどさを指摘されたり、ある学年で、朝食を食べている子が8割、ちょっとは食べているという子が1割強、94%ぐらいはまあ大体お腹に入ってきてるんですけど、後の3%はあまり食べてない。地域の格差が、福祉の格差とか学力とかいろんな面でも、同じような格差がやっぱりあるんじゃないかなというふうなことを思っております。

そこで思いますのは、先ほども申しましたが、子ども食堂の朝のバージョンがあればやっぱり違うのではないかなということをつくづく思っております。楽しく食べた経験も増やしていったあげることが、将来残っていくのかなと思っております。

会長 実は私も、子ども食堂2カ月に1回ボランティアで行っているんですが、朝ご飯バージョンをなんとかならないかというようなことをよく聞かれます。スタッフの事情もありますので、なかなか難しいようですが。子どもは一口入れた瞬間に本当に落ちつくんですね。それは本当にわかります。

委員 地域栄養士会トゥディは、発足して30年近くになります。

小学校には、学校給食の栄養士さんがいらっしゃるので、学校にもよるとは思いますがとても熱心です。ただ中学校が、やはり豊中市の場合お弁当が中心なので、お弁当を持って来ない子や、当日菓子パン買って食べる子もいます。以前中学校で食育講座をさせてもらいましたが、前の晩からジュース1杯しか飲んでないという極端な子もありました。やはりそういう子は体も小さく落ち着きがありません。

それから、男性シニアクッキング教室を実は2年前までやらしていただいてました。広報とよなかに載せると申し込みが殺到するんです。1日目でもう定員が埋まってしまうような状態で、実際当日調理実習したら、やはり奥様にご病気になられたとかそういう方が結構いらっしゃいます。本当はもっとやりたいのですが、私どものメンバーもだんだん減ってきてまして難しいところがあります。それから、そういうクッキング教室をする場所もなかなか見つからないということもありますので、行政の方でバックアップしていただいたら、ありがたいなというふうに思います。

それから、歯の教室のことですが、私もこの3月まで乳幼児を対象に栄養士の仕事をさせてもらっていたんですけども、講習会の終わった後に歯の教室がありますよ、と声かけをしていましたが、そこで聞いた人は、結構申し込まれていますので、やっぱりそういう集団で集まったときに声を

かけるということがいい方向につながるのではないかなと思います。

委員

お話を聞いていて、2つ思ったことがあります。まず3歳半健診で歯間ブラシのことをおっしゃっているということですが、正直3歳の子の歯磨きって、結構嫌がる子が多くて、まずそこを親としては重要視するので、歯間ブラシまでいくのはちょっと難しいのかなと思うところがあります。

最近子どもにフロスもするようになりましたが、小学校4年生と1年生の子はぐっと入ってとれてる感覚はありますが、3歳の子は、すっと入るので、歯間ブラシの意味がないわけは絶対ないと思いますが、3歳半健診で言うよりは、年中とか年長とか生え変わる時期とか、ちょっと歯がしっかりしてきた頃に言っていた方がいいのかなと思います。

小学校でよい歯の集いがあってうちの子も行ってきて、どうだったと聞くと、楽しかったとか、そういう感想しか返ってこなくて、子どもにはフロスはあまり印象に残っていないから、家でも話さないし、それで親もわからないままなのかなと思います。例えば年中や年長の保護者会のときや、小学校の集まりのときに、直接話していただいたほうが、親には届くのかなと思います。

それから、食事は自分のために作るのはめんどくさいと思ってしまうこともあるかもしれませんが、誰かのためだと進んでつくろうとします。例えばうちの子どもに「～しなさい」と言ってもあまりしないことを、「ママのためにご飯作ってくれへん」と言うと、大喜びで「やる」と言って、それをみたときに、小学校・中学校・高校とかの夏休みに、お母さんお父さん、おじいちゃんおばあちゃんにご飯をつくろうという宿題を出してみるのもいいのかなと思います。子どもも人のために何かをするということのほうが、受け入れやすいのかなと思いました。

委員

乳児健診でよく相談を受けるのが、子どもが歯を磨かしてくれないと。それは当たり前でして、大事なことは、嫌がる子どもを無理にということではなくて、できること、例えばにっ、と口をあけましようとか、そういうことから始めてくださいということです。個人差もありますし、子どもの場合成長しますから、今できないことでも半年後にはできるかもしれないので、まずは焦らないで、成長に合わせたプランを立ててくださいというか、そういう目で見てくださいと申し上げています。なので3歳になったら必ずフロスをしましよう、というお話ではございません。

それから、学校健診なんかで虫歯とかで来られますよね。大抵小学校の場合は親御さん一緒に来られますが、どういうことを私たちが聞くかというと、「虫歯どこにあるかご存じですか」と聞くと、「いやあ、そこが黒いねん」とおっしゃる方もいらっしゃるんですが、「いやあ、どうなんでしょうね」とおっしゃって、子どもの治療の最中にスマホを触っているお母さんも結構いらっしゃるんですよ。一番大事なことは、お子さんの口の中はどういう状態であるかを知っておいてほしいということです。

フロスを使おうとすると、親御さんの協力が要ります。それはもちろん

強制的なことではなくて、教育とかしつけとか、その一環として、子どもが受け入れればそれが一生続くと、そういう意味ですが、焦らずに無理せずに、それでいてお子さんのお口の中は、ある程度の年齢までは把握していただきたいなど、そのように思っております。

委員 どの園も同じだと思いますが、歯科健診における虫歯の有無にかかわらず、結果はお知らせしていますので、その折に、ここがちょっと気になる言うてはりましたという話は、保護者にしていると思います。ただ、歯ブラシを見たらかたくなに口を閉じて、下を向いたり逃げ回るような子もいて。さっき先生がおっしゃったみたいに、必ず3歳からフロスを使いなさいという話ではないということと、やっぱり園と保護者と歯医者さんとで連携して、もっとお母さん方を導くことができればいいなと思います。

委員 1、2歳になってくると個人差はありますが、まずは歯磨きの習慣をつけるところからやっていきます。中には歯ブラシを見ると、いなくなる子もいますので、まずは口をあけるところから練習して遊びながらやっています。歯磨きをすること自体が嫌にならないようにしています。

委員 絵本や人形等のツールを使いながら、子どもが虫歯になるのは嫌、歯はちゃんと磨いたほうが良いとわかってくれるような、そういう工夫を園単位でやっているところですが、例えば、市で、何か共通で使えるような媒体を用意してくださると、どの園でも一定ラインまでは取り組みやすいのかなと思います。例えば0～2歳と3～5歳向け大きく2つでもあると、随分違うのかなと思います。

それから、若いお母さんたちを見ていると、レシピ本や料理関係のブログもよく見てらっしゃるので、豊中市でそういうとっつきやすいレシピ系のアプリとかおしゃれ・かわいい系のブログのようなものができると、お母さんたちも使いやすいのかなと思います。

昨年の9月に服部緑地でシェフの屋台というイベントがありまして、子どもたちと行って大喜びしたんですけど、多くの方が来られるので、そういうイベントで食育のブースや、シェフとコラボして、何か食育の取り組みがあると、市民の皆さんにも知れわたり方が全然違うのかなと思います。

委員 2004年の国会で食育基本法が通りまして、それから約10年近くなって、文科省が、小学校、大阪は少ないですけど中学も給食でもって食育をしているってはどうかということで、今から7、8年前に学校給食法を改正し、学校の給食時に、食育を取り入れるということになりました。ところが現実には、先生方非常に忙しく、給食中に食育を頭に置いてしゃべったことはないと話される先生もおられます。学校現場における先生の残業も問題化しており、改善中でございます。実際に改善して、先生にも余裕ができてくれば、給食を食育に使っていくことができ、少年期の6歳～15歳の食育に関心を持っている割合が上がっていくのではないかと思います。

委員 近年、働き方改革のことも含めまして、先生方に休憩時間をきちっと取るようにと言われております。給食の時間も本来であれば休憩をとっていか

ないといけないところですが、非常に悩ましい、難しいところです。先生方は、給食を子どもたちと一緒に配ったりしてくれていますが、なかなか労基法的なことでもなかなか難しいところはあるなと感じております。

委員 昨年まで小学生メニューコンテストというのが、夏休みの宿題で出ていましたが、今年なくなってしまったという話を聞きました。家庭科の先生が、バランスよく作りましょうと授業をした上で夏休みの選べる宿題の1つとして出されていて、あれはすごくよかったなと思っていました。

学校では、給食の時間におにぎりをつくってくれたりする先生もいらっしゃるって、残さず食べようということを本当に一生懸命やってくださっているなと感じています。できるかわかりませんが、エプロン先生みたいな形で、保護者の中から募って、先生のフォローをしたりしながら、給食のちょっとしたフォローができたかなということも、今お話を聞きながら思っております。

それから高齢者についてですが、ケアマネジャーの方から施設を紹介していただいて、当初拒否していた父親もバラエティに富んだ食事のメニューを見てすごく興味を示してくれて、今は週3で通っています。施設に対しても、食べ物、食育等に関するようなことを言っていただけたら、本当にうちみたいに助かるところもあるのではないかなと思いました。

委員 五体満足が一番健康のもとで、今まで何となく食事をいただいておりますが、病気になって、本当に食のありがたみが一番よくわかってまいりました。学校での給食ということもありますが、家庭で一緒に食べる食事もあると思います。食事をするときには手を合わせて「いただきます」、終わったら「ごちそうさま」と言って、生き物をいただいているというそのありがたみを感じることが大切だと思います。

今の子どもは何をやっていてもご飯を食べられる。昔は親が一生懸命仕事をして、子どもも一生懸命仕事をしながら、そうして初めて親がつくった食事をいただいていた。やはり親のありがたみがわかれば、子どもたちの行動も素直にいくのではないかなと思います。

農業祭や豊中まつりでは、豊中市産は安心して食べられるということで、皆さん楽しみにしておられます。そういうことを一つずつ、ここにおられる方々でも、一人一人がやっていくと、食育もいつの間にかだんだんと広がっていくのではないかなと思います。

委員 20代から30前後くらいの若い社員に食事をどうしているかと聞きますと、約7割が一人暮らしかなという感じですが、一人暮らしはほぼコンビニですね。日曜祭日なんかに料理をつくって、おにぎりを1週間ほど冷凍庫に入れておくというのが、5%くらいいるかなという感じです。

私のほうの会社は食品メーカーでして、会社ではホームページに力を入れております。見にくる人が何を見にきているかということを見てもみると、一番人気はレシピです。毎月2万人前後ぐらいの方がアンケートに回答してくださっていますが、その内容も、レシピに関する質問ですとか、メニ

ューについてですので、レシピに非常に興味が強いことがわかります。

最近ビーガン商品をいくつか出していまして、なかなか他では手に入らないということもあるんだろーとは思いますが、全国津々浦々から反応がきております。ノンアレルギーですとか、食がもたらすそれぞれのプライベートな問題に対して、深刻な要望があるということも非常によくわかります。

コンビニですます圧倒的な数の若い人たちと、一方で、35ぐらいから50ぐらいの奥様方だろーと思いますが、レシピに対する強い欲求があるというのと、この2つが一番印象深いことかなと感じております。

委員 私たちの会では、毎年魚のさばき方・お料理・洋菓子づくり等の講座を継続して行っています。継続することにより、リピーターで受講される方も増えています。継続的に受講されることにより料理を作る楽しさに気づき、行動に移されているようです。

最初は魚のさばき方が難しくなかなか上手にさばけなかったが、継続して受講することにより、だんだん上手にさばけるようになってきました。継続することがいかに大切かよくわかりました。

私の孫の事です、今年大学生になり一人暮らしを始めましたが、1カ月くらいで体調を崩してしまいました。実家に帰り、規則正しい食生活をすることにより、3週間ほどで回復しました。その時、食生活の大切さに気付き、今では自炊して頑張っているようです。最初は1人前を作る材料の量が分からず、「多量のカレーが出来上がり、何日もカレーを食べ続けた」と言っていましたので「作り過ぎたら冷凍にすればよかったのに」と言うところ「あっ、それに気づかなかった」と言っていました。

今では、時々LINEで「今日作った料理です」と写真が届きます。この夏、大阪に帰って来た時、「冷蔵庫の中にあるもので何か作って」とお願いすると、タブレットで検索をし、ゴーヤチャンプルーを作ってくれました。とても美味しくできていて「おいしい、おいしい」と言っていたくと、それでまた自信がついたようです。

この夏は、大学生の孫だけ遅れて大阪に来たのでゆっくり話す機会があり、良いチャンスと思い。おばあちゃんの知恵をいろいろ話して聞かせました。

委員 今日お話を聞いていて2点ございました。1つは、先ほどお祭りのときに、シェフの催しが非常に子どもに人気だったということですが、づくり手の顔が見えるということは、子どもたちにとっても非常に大事なことだと思います。

学校教育、学校給食が食育の場であるという、大事な場だと確かに思います。私も同感ですが、例えば給食のおばちゃんが、これをつくるのに何時間煮込んだとか、何時間かけて手間暇かけてやったということ、そういう場でお話をされたり、つくられた方の顔の見えるところで、こんなふうに苦労してつくったんだよ、というお話があると、つくってもらって食

べる子どもたちにとっては、感謝の気持ちが芽生えて、すごくいい食育になるのではないかと思います。

2つ目は、主食・主菜・副菜がそろった食事を1日2回以上とっている人の増加という目標ですが、この主食というのが、お米、パン、いろいろあると思いますが、健康状態を維持できている人たちという層もあれば、いわゆる糖質制限をしたり、治療真っ最中の人たちもいらっしゃると思います。そういう方たちが、主食をいわゆるご飯等の炭水化物がそろった食事を1日2回やるというのは、非常に厳しいことになるようなケースもありますので、そういう方たちの何か具体的な着地点というのをにらみながら、指し示すようなものがあればいいのかなというふうに思いました。

会長 皆さまから大変貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。
続きまして、案件4「血管プロジェクト『減塩協力店の募集』について」事務局からお願いします。

■案件4 血管プロジェクト「減塩協力店の募集」について

事務局 減塩を進めるためには、個人への働きかけだけではなく、飲食店にもご協力いただいて、食環境を整えることが重要です。現在減塩協力店を大募集中です。

・資料3「減塩プロジェクト」協力店大募集

会長 最後、その他について、よろしく願いいたします。

事務局 たくさんのご意見ありがとうございます。目標値の達成に向けて、関係部署とともに、連携しながらやっていきたいと思っております。

今回の年次報告書等につきまして、先ほどのご意見も含めまして、何かお気づきの点がございましたら、9月2日月曜日までに事務局までよろしく願いいたします。

会長 本日は長時間にわたり、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。まだまだ暑い時期が続きますので、どうぞ御自愛ください。

閉会 午後16時05分